

掘りだそう、自然の力。

Calbee

カルビー株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館22階
広報部 TEL.03-5220-6226
<http://www.calbee.co.jp/>

【WEB・PDF詳細版】

本冊子には記載していない詳細な情報は
WEB・PDF版に掲載しています。
下記アドレスからご覧下さい。

<http://www.calbee.co.jp/csr/>



VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの100%植物油の
インクおよびFSC®認証用紙を使用し、印刷工程で有害
廃液を出さない「水なし印刷方式」を採用しています。

掘りだそう、自然の力。

Calbee



カルビー株式会社

社会・環境報告書

2012 Corporate Citizenship Report
ダイジェスト版



この報告書でお伝えしたいこと。

2011年は私たちカルビーグループにとって、忘れられない一年となりました。

東証一部上場を果たしたまさにその日に、東日本大震災が発生し、多くのステークホルダーの皆様にご心配とご迷惑をお掛けする結果となりました。2011年度は上場一年目という、大きな責任と、また、震災をきっかけとした多くの気づき、また、その対応に真剣に取り組んだ一年であったと思います。安全・安心な商品やサービスの提供を基本として、カルビーグループの社会的な役割とは何か、私たちがすべきことは何かを考え、カルビーらしさを追求した一年であったとも言えます。もちろん、この取り組みにゴールは無く、常に社会の変化を見据え、真の「愛される会社」を目指すために、進化し続けなくてはなりません。本報告書は、社会・環境報告書2012ダイジェスト版として、2011年度の取り組みのなかで、特にステークホルダーの皆様にお伝えしたい“カルビーらしい”取り組みをピックアップして報告しています。お伝えしたいことのほんの一部ではございますが、カルビーのステークホルダーの皆様とのコミュニケーション事例をご覧ください、私たちの想いを少しでも皆様にお伝えすることができればと願っています。

掘りだそう、自然の力。

Calbee

企業理念

私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献します。



会社概要

商号 カルビー株式会社 CALBEE, Inc.
本社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館22階
電話番号 03-5220-6222(代表)
設立 1949年4月30日
代表者 代表取締役会長 兼 CEO 松本 晃
代表取締役社長 兼 COO 伊藤 秀二
資本金 112億52百万円
事業内容 菓子・食品の製造・販売
売上高 1,632億68百万円(連結)(2012年3月期実績)
従業員数 2,897人 うち正社員1,494名(2012年3月31日現在)

編集方針

カルビーは2007年度から企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility:CSR)にかかわる取り組みをまとめた報告書を発行しています。2012年版の制作にあたっては、昨年度の株式上場、東日本大震災を受け、改めて、カルビーの想いをステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えしようという考えから、詳細版(WEB・PDF)、ダイジェスト版(冊子)と分けて発行することにしました。ダイジェスト版では、特にお伝えしたい、カルビーらしい取り組みを掲載しています。詳細版では、カルビーの社会・環境への取り組みを網羅的に掲載しています。下記URLよりWEBサイトをご覧ください。
URL:<http://www.calbee.co.jp/csr/>

第三者意見

本報告書の信頼性向上を図るため、第三者の方によるご意見を、詳細版(PDF)に掲載しています。

報告範囲

- 対象期間
2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日まで)。ただし、一部に2011年度よりも前、または2012年度以降の活動報告も含んでいます。
- 対象範囲
カルビーを中心に、グループ会社に関する報告も一部含んでいます。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)(2011年版)」
GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第三版」

免責事項

本報告書には、カルビーグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通しなどの将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。また、各報告データは端数処理のために合計が合わない項目があります。読者の皆様には、以上をご了承いただきますようお願いいたします。

INDEX

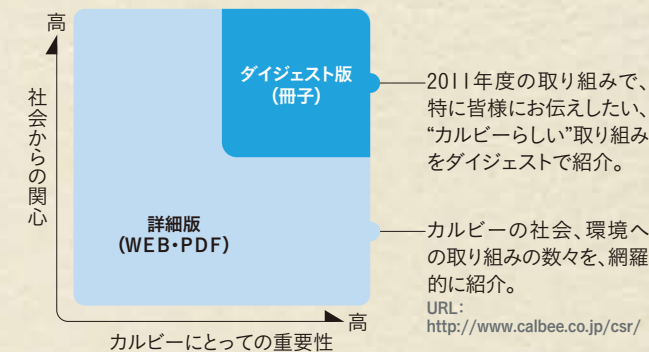
この報告書でお伝えしたいこと。……………	02
編集方針 INDEX	
トップメッセージ……………	04
すべてのステークホルダーの皆様から尊敬され、 賞賛され、愛される会社を目指します	
お客様のために……………	06
“おいしい”“たのしい”を直に体感できる アンテナショップを展開。	
お取引先様のために……………	08
お取引先様とのパートナーシップが カルビーを支えています。	
従業員のために……………	10
ダイバーシティは、 いわば「総力戦!」です。	
社会のために……………	12
未来のために私たちができること。 子どもたちの夢の実現。	
環境のために……………	14
カルビーは地球の恵みを受けて 事業活動を行っています。 だから地球への恩返し。 それがカルビーの責任です。	

発行日について

2012年6月(前回2011年6月 次回2013年6月予定)

レポートの位置づけ

社会・環境報告書2012年版では、ダイジェスト版、詳細版とその役割を明確に分け、発行しています。



すべてのステークホルダーの皆様から 尊敬され、賞賛され、 愛される会社を目指します

上場して一年が経過しました

カルビーが上場企業としての第一歩を踏みだして一年が過ぎました。2011年度は、上場同日に発生した東日本大震災の影響から厳しいスタートとなりましたが、すべてのステークホルダーの皆様を支えられ、2011年度も無事に経営計画を達成することができましたこと、心より深く感謝申し上げます。今後も、カルビーに対して大きな期待を持っていただいていることを日々実感しながら、皆様の期待を裏切らないよう、一層のスピードと競争力を持った経営活動を進めてまいります。

社会貢献活動は重要な使命です

「顧客・取引先から、次に従業員とその家族から、そしてコミュニティから、最後に株主から尊敬され、賞賛され、そして愛される会社になる」……これがカルビーのビジョンであり、CSRの基本姿勢です。私たちは社会貢献活動が企業の持続的な成長に欠くことのできない重要な使命と考え、社会の発展や健康の増進、教育の改善、環境や資源を保護する活動に積極的に参画し、有益な社会事業や福祉に貢献する事業を進めています。

被災地支援や様々なボランティア活動を 推進しています

2011年度も「社会貢献委員会」を中心に、震災遺児の進学夢を支援する「みちのく未来基金」などの被災地支援をはじめ、子育て支援や環境美化など、地域に密着したさまざまな活動を推進してまいりました。また、地球環境への負荷軽減への取り組みは前年度に引き続き、産業廃棄物の削減や再資源化の促進、CO₂排出量の抑制、水使用量の削減などにとどまらず、農業・工業・商業と連携した大きな環境課題にも着目して、行っています。

継続的成長と高収益体質の実現を 目指して改革を進めています

カルビーは創立以来、「私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献します。」という企業理念のもと、原材料であるじゃがいもの栽培や貯蔵技術の開発にはじまり、その調達から製造、店頭での販売に至るまですべての工程において品質管理を徹底し、お客様にとって安心できる高品質の商品・サービスを提供してまいりました。取り組みにあたっては、

一方的な情報発信にとどまらず、お客様の新しいニーズや価値をとらえるとともに、いただいた貴重なご意見やご要望を経営課題と認識して、企業活動に反映させる仕組みを整えています。

これらの取り組みを着実に進化させるために、継続的成長と高収益体質の実現を目指し、イノベーションとコスト・リダクションを経営の二本柱に据え、従業員一人ひとりが「自立的な実行力」を高め、自分の役割と責任を理解し、当事者意識を持って積極的に課題にあたり、さまざまな改革を進めています。ビジネスチャンスを創出するためのイノベーション（成長戦略）においては、①海外事業の拡大、②新製品開発、③国内シェア拡大、④ペプシコとの連携強化、⑤L&A

（Licensing & Acquisition）、⑥新規事業開発という6つを柱としています。2011年度は、海外での合併会社の設立、Vegips®など新機軸となる商品のさらなる拡張やヘルス&ウェルネス分野への積極参入、新規事業ではアンテナショップを軌道に乗せるなど、新たな展開をはじめています。

今後も、コーポレートメッセージ「掘りだそう、自然の力。」のもと、自然の恵みを生かした製品をもっともっとお客様にお届けし、企業としての社会的な責任を果たしてまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役会長 兼 CEO

松本 晃

代表取締役社長 兼 COO

伊藤 秀二



お客様のために

“おいしい” “たのしい” を 直に体感できる アンテナショップを展開。

カルビーにとって、お客様の声は何よりも重要な経営資源です。
そのお客様の声をもっと身近に感じたい、そして、その声に応えていきたい。
その想いが結実し、このカルビーアンテナショップ「Calbee+」が
誕生しました。

お客様とのコミュニケーションの向上を実現し、よりカルビーのことを
“好き”になっていただく。そのために、カルビーは成長し続けます。



Concept

商品やサービスなどを通して、
“一歩進んだ”カルビーを楽しんでいただき、グローバルなカルビーファンを創造

Calbee+ではカルビーの楽しさを 3つのゾーン(機能)で構成しています。

① オリジナル商品を楽しむ 物販

オリジナル商品や地域限定
商品などの販売を通じて、
カルビーのことをより深く
知っていただくきっかけに
しています。

② オリジナルテイストを楽しむ イートインコーナー 飲食

普段は食べられない、でき
立てアツアツの snacks を
お召し上がりいただけます。

③ カルビーの原料、品質、 鮮度を楽しむ コミュニケーション

楽しみながら、カルビーの
品質への取り組みや、正し
い食の知識をご確認いた
だけます。

店舗紹介



新千歳空港店



原宿竹下通り店



東京駅店
(東京おかしランド内)



ダイバーシティ東京
プラザ店

担当者の声

カルビーファン創りを担う

アンテナショップの出店というのは、カルビーにとっては初の試みで
あり、さまざまな苦労がありました。商品開発から売り場レイアウト、
店内装飾、広告宣伝、販売促進まで、やらなくてはいけないことは
多々あり、社内外のメンバーで取り組み、何日も徹夜の日々が続
きました。その甲斐もあって、多くのお客様にご来店いただいた
ときには、素直に嬉しかったです。

しかし、アンテナショップ本来の目的は、この「Calbee+」を通
じてお客様とのコミュニケーションを向上させ、さらなるカ
ルビーの進化につなげていくことです。まだその第一歩を踏
みだしたに過ぎません。まずは、お客様に何度でもお越しい
ただける店舗にし、事業として安定させ、さらにそこから新た
なイノベーションを起こしていきたいと思っています。



イノベーション開発事業部
小堀 兼裕

カルビー社会・環境報告書2012[WEB・PDF詳細版]「お客様のために」掲載内容
URL: <http://www.calbee.co.jp/csr/>

- 品質保証体制の推進
- お客様への情報開示
- 原材料の品質管理
- 生産者と連携した品質改善
- 食品アレルギーへの対応
- 品質を守る人材育成
- 品質向上へ向けた全社での取り組み
- 全件対応のお客様相談室
- お客様のニーズを商品開発に
- お客様との双方向コミュニケーション



お取引先様のために

お取引先様との パートナーシップが カルビーを支えています。

カルビーグループは、原材料の仕入れ、製造、販売という全工程において、多数のサプライヤー様にご協力いただき事業活動を行っています。安全・安心で適正な品質の製品を継続的に提供するために、サプライヤー様との強固な協力体制の強化は重要な要素です。サプライヤー様とのコミュニケーションの質を高め、サプライチェーン一丸となった品質向上への取り組みを推進しています。



コスト・リダクションへの取り組み

カルビーグループは、「コスト・リダクション」の実現を経営の基本方針とし、あらゆる面でその取り組みを推進しています。購買活動においてもサプライヤー様のご理解・ご協力のもと、実現へ向けての取り組みを進めています。

原料や部品にできるだけ汎用性を持たせることによる無駄の削減や、ロスや余剰原料を減らし、生産性を上げ、コストを削減することを目標に取り組んでいます。

この取り組みで重要なのは、ただ単にコストを削減することではなく、いかに無理や無駄をなくし、サービスを充実させることで、双方のコスト・リダクションを実現していけるかというところにあり、お互いにWin-Winの関係を構築することを一番の目的としています。

お取引先様専用ホットラインの設置

カルビーグループは、2011年10月、「お取引先様専用ホットライン」を開設し、カルビーグループが原料や資材を調達しているお取引先様からの通報を受け付けています。

カルビーグループの従業員は、購買方針・行動規範に則りお取引先様との関係構築に努めていますが、万が一、優越性、地位を濫用した疑いや行いがあった場合に、その担当者とは別のルートでトップに伝わる仕組みです。それを受け、是正措置・予防措置に努めるようにしています。

また、通報者が特定され不利な立場に立たされることのないよう、倫理・リスク管理部が窓口となり、情報を取り扱っています。

パートナー企業様の声

カルビー様と一緒に子どもたちの笑顔のため

『どうすれば、安く・おいしいものが作れるのか?』2年前からこのテーマで取り組んできました。デフレの世の中でも原料の価格は上がるものが多く非常に苦労しましたが、カルビーさんからアドバイスをいただきながらこのテーマを推し進めた結果、「2011年度 カルビー パートナーシップ ミーティング」でベストパートナー賞をいただくことができました。結果を出せたと関係者一同喜んでおります。カルビーさんと連携し作り上げたスナックがお店に並び、子どもたちが楽しそうに手に取っている姿を見ると私も嬉しくなります。これからもおいしい商品を作れるよう頑張っていきたいと思います。



理研ビタミン株式会社
業務用食品特販部

秋葉 知之様

カルビー社会・環境報告書2012[WEB・PDF詳細版]「お取引先様のために」掲載内容
URL: <http://www.calbee.co.jp/csr/>

●公平かつ公正な取引の徹底 ●品質向上に向けたお取引先様との連携強化 ●責任を果たすための取り組み



従業員のために



ダイバーシティは、 いわば「総力戦！」です。

多様な人材がどのようなライフステージにあっても、能力を最大限に発揮しながら、安心してイキイキと働ける会社を目指すため、2010年度から「ダイバーシティ委員会」を組織し、その実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

仕組みだけでなく、意識の改革にも取り組み、形だけでない、“真”のダイバーシティの実現を目指しています。



今、自立的な人材が求められています。
このマークには、どんな小さな場面でも、私たち全員が自ら、「ハイッ!」と手を挙げられるようになれば多様性は加速する、という想いが込められています。

ダイバーシティ委員会の役割

ダイバーシティ推進をカルビーグループの成長の重要な要素として、その取り組みを推進するために2010年度に設置された「ダイバーシティ委員会」。
2011年度は女性のキャリア支援を目的とした「キャリア支援部会」、ダイバーシティへの理解・共感獲得を目的とした「コミュニケーション部会」、そして工場での啓発活動を中心に行う「工場部会」という3つの部会で活動を行いました。

カルビーダイバーシティ宣言

掘りだそう、多様性。育てよう、私と**Calbee**。
互いの価値観を認めあい、最大限に活かしよう。
多様性こそ**Calbee**成長のチカラ。
「ライフ」も「ワーク」もやめられない、とまらない。

カルビーグループダイバーシティのビジョン

どの職域でも、いろんな人が「イキイキ」と働いている

育児・介護などの制約がある人も活躍できる制度・風土
コミュニケーションが活発
一人ひとりに自信とやる気とチャレンジ精神
ライフもワークも充実
ワクワクするやりがいのある毎日!

一人ひとりの成長 ➡ カルビーの成長

担当者の声

ダイバーシティの理解促進が加速した一年でした

2011年度のダイバーシティ推進活動は、「工場部会」の誕生により各地での啓発活動が活発となり、ダイバーシティに関する理解促進が加速していきました。委員会メンバーは、職種や性別もバラバラで、まさに多様性を生かしながら、お互いが刺激を受け、学びあい、相乗効果となって活動の輪が広がっています。ダイバーシティは委員だけのものではなく、全従業員が自分ごととなって初めて実現します。「イキイキ」と働き、「ワクワク」するやりがいのある毎日を送れるような会社…、その実現に向けて、委員会メンバーも周囲を支援しながら、自分自身も成長し、会社のロールモデルとなっていけるよう取り組んでいます。



ダイバーシティ委員会
事務局

中野 衣恵

カルビー 社会・環境報告書2012[WEB・PDF詳細版]「従業員のために」掲載内容
URL: <http://www.calbee.co.jp/csr/>

- 人を生かす組織・体制作り
- 安全衛生管理
- 多様な人材の活躍支援
- ライフ・ワーク・バランスへの取り組み
- ダイバーシティの推進



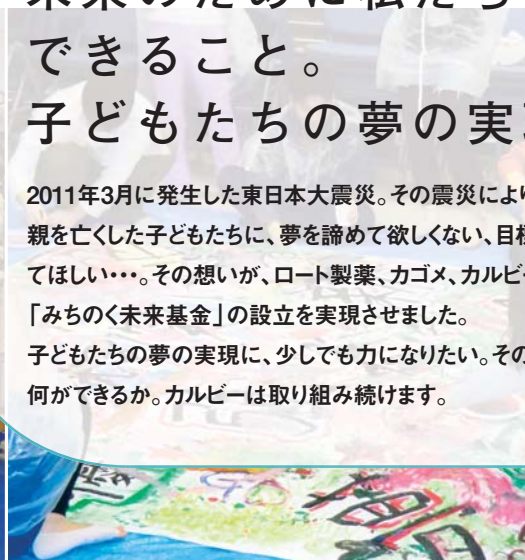
地域社会のために

未来のために私たちが できること。 子どもたちの夢の実現。

2011年3月に発生した東日本大震災。その震災により、親を亡くした子どもたちに、夢を諦めて欲しくない、目標を持ち続けてほしい…。その想いが、ロート製菓、カゴメ、カルビーを動かし、「みちのく未来基金」の設立を実現させました。子どもたちの夢の実現に、少しでも力になりたい。そのために今何ができるか。カルビーは取り組み続けます。



『みちのく未来基金』



みちのく未来基金

東日本大震災により、両親またはそのどちらかの親を亡くされた子どもたちの進学にかかる費用を支援するため、ロート製菓株式会社、カゴメ株式会社、カルビー株式会社は、3社合同で奨学金基金「みちのく未来基金」を設立しました。子どもたちに夢や目標を持ち続けながら成長できる環境整備をサポートし、長期的に復興を支援する取り組みです。

みちのく未来基金の特徴

- ① 東日本大震災の遺児すべてが対象 …… 人数制限や選考(個別)はありません。
- ② 生徒の夢に応じた支援 …… 一律の給付ではなく“必要額”を支援します。
- ③ 寄付者のご意思を反映 …… 寄付全額を生徒の学費に充当できます。
- ④ 透明性の確保 …… 基金のお金の使い途はすべてHPで公開します。

「みちのく未来基金」に関する詳しい情報は下記URLよりご確認ください。
「みちのく未来基金」の取り組みにどうか応援をよろしくお願いします!!

公益財団法人みちのく未来基金
<http://michinoku-mirai.org/>

担当者の声

みちのく未来基金への想い

私も仙台で震災にあいました。たまたま助かっただけで、生きているのであれば何かしなければ…という想いで基金事務局の社内公募に応募しました。立ち上げ当初は分からないことだらけでしたが、一年が過ぎなんとか1期生の進学支援をすることができました。まだまだ復興は続きます。今後も皆様からの暖かいご支援・ご賛同をお待ちしております。
(西澤)

みちのく未来基金の1期生の多くは自分たちが震災時に多くの人に助けられたので、今度は自分たちが人のために働きたいという気持ちを持って進学しています。また、1期生の生徒が進学することで、周りのご家族や学校の先生たちに笑顔をもたらし、希望の光を灯してくれます。皆様からのご支援は多くの人の希望や笑顔につながります。今後もあたたかいご支援を、よろしくお願いいたします。
(安井)



人材開発課
震災復興支援担当
安井 正紀(左)、西澤 省吾(右)

カルビー社会・環境報告書2012[WEB・PDF詳細版]「地域社会のために」掲載内容
URL: <http://www.calbee.co.jp/csr/>

●グループ全体での社会貢献活動 ●フードコミュニケーションへの取り組み ●社会貢献活動 活動実績(抜粋)



カルビーは地球の恵みを受けて
事業活動を行っています。
だから地球への恩返し。
それがカルビーの責任です。



十勝平野のじゃがいも畑

工場廃食油のバイオ燃料化

カルビーでは、企業活動で発生する廃棄物を埋立・焼却することなく、再利用できる新たな資源に再生する、「資源循環」に取り組んでいます。

その一つが、工場廃食油のバイオ燃料化です。具体的には、カルビー工場廃食油を原料として軽油代替燃料であるバイオディーゼルに再生し、工場のトラック、フォークリフト、物流パートナー様の製品配送トラックに使用することです。2010年度下期、北海道工業試験場による千歳工場廃食油の品質分析・バイオディーゼル適合検査からスタート、バイオ燃料製造企業様、物流パートナー様等、関係企業様のご協力のもと、2011年度下期に千歳、下妻工場廃食油を原料の一部とするバイオディーゼル燃料の販売が開始されました。2012年3月から千歳工場のトラック、フォークリフトで使用を開始、6月からは6社の物流パートナー様のカルビー製品配送車両の一部に使用が決まりました。

今後は他工場への展開を目指して、諸条件の調査を実施していきます。



カルビー千歳工場の食油を
燃料の一部に再利用した
環境にやさしい燃料で
走行しています

バイオマスボイラーの導入

カルビーポテト帯広工場では、燃料の一部を従来の重油から、植物由来の木質チップに切り替えることで、CO₂排出量を削減できる木質バイオマスボイラーを2010年3月に導入しました。

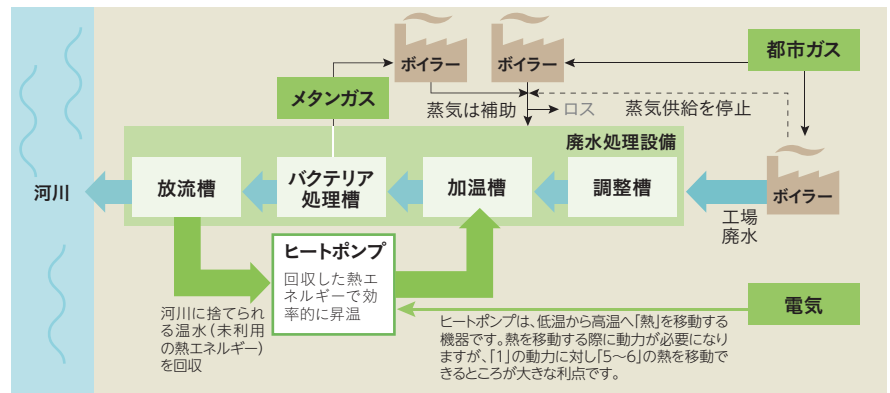
これにより、2011年度のCO₂排出量を約6,000t削減しました。

この取り組みは「2011年度北海道グリーン・ビズ認定制度」（環境に配慮した取り組みを自主的に行っている事業所等を登録・認定する制度）の『創意あふれる取組』部門（創意にあふれ、他の事業所の模範となるような優れた取り組みを実施している事業所等を認定）『地球を守る心』分野で認定され、表彰されました。



ヒートポンプの導入

カルビーの新宇都宮工場では、廃水処理設備に「ヒートポンプ」というエネルギー技術を導入し、CO₂を削減する取り組みを実施しました。これは食品工場では全国初となる取り組みで、これまで捨てられていた処理水の未利用熱をヒートポンプで回収し、蒸気に代わって工場廃水を加温することで、ボイラーから供給される蒸気を削減すると同時に蒸気配管の放熱等も削減するというシステムです。省CO₂や省エネとともに河川に放流する処理水の温度が下がり、環境負荷低減にもつながっています。



カルビー社会・環境報告書2012[WEB・PDF詳細版]「環境マネジメント」掲載内容

URL: <http://www.calbee.co.jp/csr/>

- 環境マネジメントの推進
- CO₂削減の取り組み
- 生産時のCO₂削減
- 輸送時のCO₂削減
- 省エネへの取り組み
- 廃棄物の発生抑制と再生資源
- 水資源の利用